

新型肺炎とインバウンド

新型コロナウイルスによる肺炎が、中国から世界に広がりつつある。10 数年前の SARS (2002 年 11 月発生、03 年 7 月収束)を思い出す。あのときもマスク姿が大半であり、学会が中止になったと思う。あれからグローバル化がさらに進んで、日本経済にも深刻な影響をあたえている。

写真上は中国人ら外国人観光客が行き交う黒門市場=大阪市中央区、下は多くの人でにぎわう銀座中央通り=東京都中央区、いずれも 26 日午前(朝日新聞 1 月 27 日朝刊)。抜粋して紹介したい。



「大阪の台所」と呼ばれる大阪・ミナミの黒門市場。26 日も外国人観光客でごった返し、食べ歩きをしたりスマホで写真を撮ったりする中国人観光客も行き交っていた。老舗魚屋「鮮魚川崎」を営む川崎洋さん (47) は、例年の春節より客足は少し少ないが、にぎわいを感じる。団体旅行禁止について「ウィルス侵入を防げる」と評価する一方、「長引くと売りにげに影響する。こちらで対策の取りようがない」と困惑顔だ。和牛専門の精肉店の 50 代の男性従業員は「これから厳しくなる。とにかく早く収まってほしい」と願う。

ミナミのあるドラッグストアは中国人観光客が主なターゲット。男性従業員は「まとめ買いしてくれる中国の団体客は多い。団体旅行の禁止は、売りにげの減少につながる」と危機感を持つ。「インバウンド景気は外的要因にすぐに左右されるので、仕方がない」とあきらめ顔だった。

ミナミのインバウンド対策事業を手がけるイベント会社代表、牧香代子さんは「春節で訪れる中国人は、すでに日本入りしている人がほとんど。直ちに影響はない」と見る。ただ、禁止が長期化すれば話は別だ。「シェアが大きい中国人が減れば大打撃。それでも、日韓関係の悪化で韓国人観光客が減っているのに……」と話す。

インバウンドによる消費は百貨店など小売業界でも収益の柱になっており、中でも中国は最大の顧客だ。

大丸松坂屋百貨店を運営する J フロントリテイリングでは、訪日外国人客の 85%が中国人客だという。直近の訪日客向け売りにげは好調で、1 月は 25 日までで前年同期比 3 割以上も伸びていた。その矢先の団体ツアー禁止に「間違いなく業績に影響を受ける。手の打ちようがない」(広報)。大丸心斎橋店では売りにげの 3~4 割を訪日外国人が占め、うち 9 割以上は中国人による高級ブランドや化粧品などの購入だ。個人客も増えてはいるが、まだバスなどで来る団体客が多く、団体ツアーの禁止は「影響が大きい」(広報)と嘆く。

(2020 年 2 月 2 日)